

平成 22 年 3 月 15 日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2007～2009

課題番号：19791663

研究課題名 専門看護師サポートネットワークシステムの開発

研究課題名 The internet system was developed to Support network for certified nurse specialist

研究代表者

高見 由美子 (TAKAMI YUMIKO)

兵庫県立大学・看護学部・助教

研究者番号：30438262

研究成果の概要（和文）：

専門看護師（以下 CNS）の活動をサポートする為に、インターネットを用いたサポートシステムを開発した。調査結果より、時間・地域・専門領域を超えた相談場所として、システムに対する CNS の関心・使用希望は共に高かった。しかし、システムに対する期待がある一方で、運用を開始するには、セキュリティ面の強化やシステムを CNS 活動の複雑さに合うように改善が必要であることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：

To developed the internet support system for certified nurse specialist(CNS).The interest and the hope to the use of CNS for this system was high as a consultation place beyond the specialty field and region. Additionally, this system may not worry about time. In result, This system is expected. However, It was clarified to be need to improve the system to match complexity of the CNS activity and enhance security to start use.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	1,500,000 円	0 円	1,500,000 円
2008 年度	800,000 円	240,000 円	1,040,000 円
2009 年度	900,000 円	270,000 円	1,170,000 円
年度			
年度			
総計	3,200,000 円	510,000 円	3,710,000 円

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：専門看護師・サポート・ネットワーク

1. 研究開始当初の背景

(1) 専門看護師活動の現状

1996 年に日本に初めて専門看護師（以下 CNS とする）が誕生してから十余年が過ぎ、

2010 年現在その数は 451 名となっている。CNS の活動は、患者・家族・医療職すべてを包括的にとらえ関わるため複雑多岐にわたり、その内容と効果が明確化しづらい状況がある。

CNS 制度自体がまずは数を増やし、実績を積み重ねてその役割効果を示していくことが期待されている。CNS そのものがまだまだ少ない中で、個人の努力に任せられるところが多い現状である。また、ここ数年で認定者数の増加が見られだしており、これは新米 CNS が多く存在することを意味している。その役割期待の大きさから、「期待に応えられるだけの活動ができるのだろうか」といった不安を抱きながら活動している現状もある。

(2) CNS 制度定着に必要なもの

新しい制度が社会に認められ、活動の場の安定と拡大を得るためには、時間とその制度の有効性と経済効果を明らかにすることとともに、その制度自体を認めてもらおうと第一線（臨床の場）で日々奮闘している者をサポートすることも重要である。CNS の活動をサポートするものとして、国際的には ICN 後援の International Nurse Practitioner / Advanced Practice Nursing Network(以下、国際 NP/APN ネットワーク)が存在する。しかし、日本国内ではまだまだ専門領域内のカンファレンスが行われる程度であり、領域や地域を超えて CNS をサポートする全国規模でシステムのものは存在しない。CNS が専門領域や地域を超えて、ネットワークを組み協同して活動することは、実践ケアの質の向上と、幅が広がると考える。さらに新人 CNS が先輩 CNS にコンサルテーションや心理的サポートを受けることができるなど、新人 CNS の早期からの活動効果の安定性が期待される。このようなことから、CNS が専門分野や地域を超えて利用できる、利便性の高いネットワークシステムを整えることで、その活動をサポートすることができると思う。

2. 研究の目的

CNS にとって利便性が高いサポートネットワークシステムを構築し提供することで、CNS が専門分野や地域を超え、お互いに活動を支えあい、刺激し合えるようにサポートすることを目的としている。

3. 研究の方法

(1) CNS サポートネットワークシステムについて

CNS サポートネットワークシステムとは CNS のための、オンライン上のやり取りを介しておこなう CNS 活動のサポート資源である。

CNS サポートネットワークシステムの有用性

CNS が日々の活動の中で、アドバイスを必要とした時に、多数の相手に時間と場所を気にすることなくサポート依頼が出せる。投げかけたサポート依頼に対して複数人からのアドバイスを受け取れる可能性が広がる。サポートネットワークシステムへ登録するこ

とで、それまで面識のない他領域や遠方の CNS との交流が広がる。

CNS サポートネットワークシステムの構造
コンサルト機能、研究、コミュニケーションの場の3つから構成される。コンサルト機能：実践・教育・調整・相談・倫理的調整の5つの専門看護師の役割に関して、同専門領域または他専門領域の専門看護師に対してコンサルトを依頼できる機能。研究：新たな実践技術の開発、CNS 効果指標作成などを目的とした共同研究誘いの場。コミュニケーションの場：組織への入り方や業務拡大戦略など、活動方法における相互サポートの場。

CNS サポートネットワークシステムの安全性の確保

ID 登録者会員のみが利用できるように整備する。システム構想を具体化する際に、会員間の情報のやり取りに関する規定を作成し徹底する。

(2) 研究の進め方

研究を二段階に分けて進める。第一段では CNS にサポートネットワークシステム案を提示し、修正希望や必要とするサポート内容の明確化を図る。第二段では作成したシステムを CNS に紹介し、意見を回収しシステムの精練を行う。

(3) 第一段研究

データ収集期間

2007年12月下旬～2008年2月中旬。

研究協力者

日本看護協会公式ホームページに、氏名・勤務施設名を掲載している CNS212 名の内、調査用紙の返却が得られた 130 名(61.3%)である。

データ収集方法と分析

デモグラフィックデータ、インターネット使用状況、必要なサポート、システムへの関心を問う自記式質問紙調査を行った。質問紙は無記名で郵送にて返却を依頼し、得られたデータは単純集計を行った。本研究は兵庫県立大学看護学部研究倫理委員会の承認を得て実施した。得られたデータは単純集計を行った。

(4) 第二段研究

データ収集期間

2009年3月下旬～5月上旬。

研究協力者

日本看護協会公式ホームページに、氏名・勤務施設名を掲載している CNS273 名のうち、調査用紙の返信が得られた 155 名(58.1%)である。

データ収集方法とデータ分析

デモグラフィックデータ、本システムの機能や運営方法への意見を問う質問紙調査を行った。質問紙は無記名で郵送にて返却を依頼し、得られたデータを単純集計した。研究は兵庫県立大学看護学部研究倫理委員会の

承認を得て実施した。得られたデータは単純集計を行った。

4. 研究成果

(1) 第一段研究結果

対象者は平均年齢 39.9 歳、平均臨床経験 15.0 年、平均活動年数 2.7 年だった。91.5% (119 人) が職場でインターネットを使用できる環境である。CNS の役割において、同領域・他領域 CNS への相談希望の有無を問う 12 項目の内、9 項目において「はい」と 50% 以上が答えていた。中でも実践について同領域 CNS に相談したいでは 87.7%、相談について同領域 CNS に相談したいは 80.8%、実践について他領域 CNS に相談したいは 77.7%、共同研究の場が欲しいは 73.8%、CNS の役割以外の事で相談したいについては 70.0% が「はい」と答えた。またシステムへ関心があると 90.8% が答え、システムの利用希望では 76.2% があると答えていた。利用したいと答えた人は、このシステムについて、広く相談できる、他領域の CNS に相談できる、地域を越えて相談できる、オンラインである、情報源となる、時間を気にしない、タイムリーに相談できる、ネットワークが獲得できる、エンパワーし合えるといった事に魅力を感じていた。

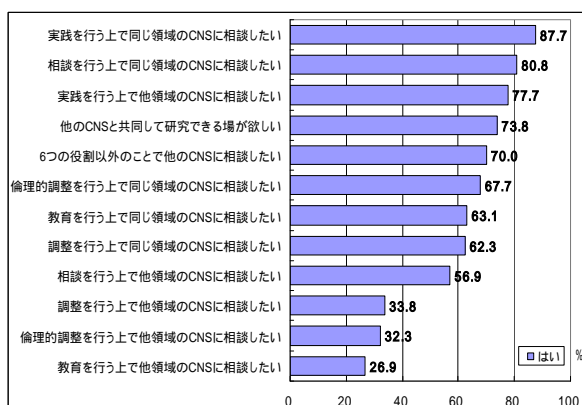


図1. 役割における他の専門看護師への相談希望の有無

また、CNS 活動に必要なサポートについては、研修などのスキルアップや管理者の理解、研究のフォローについて、学集会等での顔合わせの場、事例検討会、メールでの相談場所、情報交換の場など CNS 間でのやり取りに関する事があげられていた。

(2) 第二段研究結果

対象者の平均看護師年数は 16.4 年、平均 CNS 年数は 3.6 年であった。有効回答 155 名中システムにアクセスしたのは 77 名であった。一方アクセスしなかった 74 名の理由には、多忙 (77.0%)、登録に抵抗 (23.0%)、他のネットワークがあり不要 (16.2%) があ

った。またアクセスと共に ID 登録を行った人は有効回答 77 名中 34 名であった。登録しなかった 43 名の理由は、セキュリティに拒まれた (41.2%)、多忙 (20.6%)、困っていない (14.7%) 等であった。ID 管理を必要と答えたのは有効回答 62 名中 54 名であり、日本看護協会や日本専門看護師協会との連携が必要、プライバシー保護が心配等の意見があった。メールリスト機能を必要と答えた人は有効回答 65 名中 48 名であり、考えを共有できるという意見の一方で、必要な時に自らアクセスするため不要である、個人情報管理が心配である等の意見があった。システムへの意見として、意見交換が出来る場所はありがたいとする一方、Web 上でコンサルテーションを行う事への限界も聞かれた。

(3) CNS の活動とサポートネットワークシステムのあり方

CNS の活動は、患者・家族・医療職すべてを包括的にとらえ関わるため複雑多岐にわたり、その内容と効果が明確化しづらい状況がある。その為多くの CNS が他の医療職や、同じ看護職に対してもどのような働きが出来るのかを示していく段階におかれている。また組織に 1 名の存在であることが多く、効果的な活動方法を個人で模索している状況が見られる。現在、日本国内における CNS 分布状況は、首都圏や近畿地方に集中している現状がある。地方の CNS 達は、相談したくとも、時間や地域的困難さを抱えている。

第一段研究の結果から、CNS のシステムに対する関心や使用希望の高さが伺え、本システムの構想は CNS の希望に添えるものであり、かつインターネット普及率からも実施可能なものであると考える。

しかし、第二段研究を行ったところ、質問紙の返信状況は第一段研究と差はなかったが、約半数がシステムにアクセスしない結果であった。アクセスしなかった理由に多忙が最も多くあげられていたが、多忙ゆえに時間や地域を気にせず、専門領域を超えたネットワーク作りが必要であるという考えのもと進めてきたシステムではあるが、「使用してみたい」と「実際に使用できる」との間には開きがあった。また多忙に次いで、登録制に抵抗を感じアクセスしなかったことがあげられていた。情報管理についての不安と共に、数件ではあるが CNS が行う複雑なコンサルテーションを、インターネットを介して行うことの難しさも意見としてあった。やり取りする情報の複雑さ・個人情報の多さから、やはり信頼できる顔見知りでなければ相談できないといった声もあり、利便性と信頼性を兼ね備えることの難しさが表れた。また 2007 年に日本専門看護師協議会が発足し、CNS 間のやり取りが活発になったことから、研究開始当初に比べ、ネットワークを得やすくなる

という改善も起こっている。

本システムはインターネットを使用するため、時間や地域を気にすることなく、多数の相手とやり取りできることがメリットである。多忙感をもつ CNS 同士が、時間を作り顔を合わせて相談し合う機会を捻出することは難しく、活動を支えるには気軽に得られるサポートが必要である。

今後は、日本専門看護師協会や日本看護協会との連携も視野に入れながら、セキュリティ面を強化すると共に、CNS の活動の複雑さに合わせたシステム変更が必要である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

高見由美子、「専門看護師サポートネットワークシステム」の開発における専門看護師が求めるサポート内容の明確化、兵庫県立大学地域ケア開発研究所研究活動報告集、査読無、Vol. 4、2010、1-4。

〔学会発表〕(計1件)

高見由美子、「専門看護師サポートネットワークシステム」の開発における専門看護師が求めるサポート内容、第28回日本看護科学学会学術集会、2008.12.13、福岡

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

<https://www.coe-cnas.jp/cns/default.asp>

6. 研究組織

(1)研究代表者

高見 由美子 (TAKAMI YUMIKO)

兵庫県立大学・看護学部・助教

研究者番号：30438262

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし